

しが国際協力親善大使レポート

おき かずみ
沖 和未さん

隊次：2019年度1次隊

職種：障がい児・者支援

派遣国：パラグアイ

自己紹介

和歌山県出身で、滋賀県の特別支援学校で12年間働いていました。今は、日本でのお仕事はお休みをもらい、日本の反対側にある国パラグアイ共和国で青年海外協力隊として活動しています。小さい頃から好奇心旺盛で、外国にとっても興味があり、色んな国に行ってそれぞれの国のことを知りたいなと思っていました。高校生の時に英語の先生からペルーにある「マチュピチュ」の話聞き、「行ってみたい！」と強く思ったことを今でも覚えています。働き出してから、インドネシアやエクアドル、ベトナムなどへ行き、世界には自分の知らないことがたくさんあって面白いな、もっと知りたいなと思いました。また、もし自分の知識や経験が途上国の人の役に立つなら、是非協力したいと思い、前々からやってみたいと思っていた青年海外協力隊に応募しました。

活動している国、地域の気候や文化の紹介

パラグアイには四季があります。でも、日本の四季と少し違います。私たちがパラグアイに着いたのは8月でパラグアイは冬でしたが、朝と夜は厚手の上着が必要なくらい寒く、昼間は30度を超え、半袖で過ごすくらい暑い日々でした。夏になると最高気温は40度を超えます。だから皆とっても早起き。暑くなる前に用事を終わらせるため、朝5時半頃から家の掃除をしていることもよくあります。学校も朝7時から授業が始まります！

活動や生活について

私は、パラグアイの首都、アスンシオンからバスで3時間くらい離れた「エウセビオ・アジャラ」という町で小中学校に通っている支援が必要な子どもたちが通うセンターで働いています。パラグアイでは、教室が足りないなどの理由から、午前と午後で違う学年の生徒が通っている学校が多いです。そのため、午前中に小中学校に行っていた子どもは午後に、午後に小中学校に行く子どもは午前にセンターに来て勉強をします。センターは小さく、子ども達が使う部屋は3部屋です。午後は人数も多いので、一つの部屋をホワイトボードで区切り、違う先生が教えています。

私の職場には、ボランティアが来るのは私が初めて。お互い手探り状態です。何でも気づいたことからやろうと思い、まずは、授業中に子ども一人一人の待ち時間が長かったので、

一人でも勉強できるような教材を作り始めました。センターにはラミネーターや両面テープ、マジックテープ、コピー機など普段日本で使っていた道具はありません。どんな物が使いたいのか拙いスペイン語で説明したり、写真を見せたり・・・準備から時間がかかり、日本では2時間で作れる物でもここでは1日はかかります。作るのは一苦労ですが、出来た教材を見せて説明すると、先生達は興味をもってくれ、積極的に活用してくれています。先生達が「これいいね！」と授業で活用してくれたり、子ども達が「それ何？やりたい！」と言って使ってくれるととっても嬉しいです。「次はこんなのがほしい」など使ってみた感想を教えてくれるので、どんな教材がいいか一緒に考えながら作れてとっても楽しいです！これからも先生達と相談しながら、子ども達が楽しく勉強できる環境を作っていきたいと思っています。



私が到着する日に歓迎会をしてくださいました。
センターで一緒に働く同僚達です。

私の町では、知らない人とでもすれ違う時に挨拶をします。私が歩いていると色々とお話しかけてくれる人もいます。また、探し物をしていたり、困っていたらすぐに声をかけてくれます。そして、少し仲良くなるとアサードと呼ばれる BBQ に誘ってくれます。休日になると、あちこちの家から陽気な音楽が聞こえ、アサードのいい匂いがします。そんな親切で陽気、フレンドリーな人が多いパラグアイですが、文化や習慣の違いから驚くことや苦労することもあります。前日に次の日休みになったと知ったり、次の日のお祭りの準備を前日の午後3時から始めて間に合うかヒヤヒヤしたり。一番驚いたのは、風邪を引いて熱がある時、

「冷たいシャワーを浴びて体を冷やさない」と言われたことです。日本とは真逆の対応なのでビックリしました。「蚊にさされた」というと「アルコールしなさい」と言われます。消毒のためです。外に干した服は必ずアイロンします。虫や細菌の対策だそうです。色々驚くことがあります、出来ることはなるべくパラグアイ人のやり方を真似しています。

真似していることのひとつがテレレです。パラグアイでは、マテ茶をたくさん飲みます。暑い日にはテレレと呼ばれる冷たいマテ茶、寒い日にはマテと呼ばれる温かいマテ茶を飲みます。一人で飲むこともありますが、大抵は皆で円になって座り、回し飲みします。休憩中はもちろん、会議中や運転中など仕事の最中にもテレレを飲みます。しんどいことがあった時でも「かずみ！テレレしよう」と誘ってもらって、皆で話しをしながらテレレしていると気持ちが軽くなります。これからまだまだ驚くこと、苦労することもたくさんあると思いますが、パラグアイ人を見習って、皆とテレレしながら焦らずのんびり乗り越えていきたいと思えます。



魚釣りゲームを子ども達と一緒に作りました。

クリップの大きさ、魚の大きさなどで釣りやすい魚、釣り上げるのが難しい魚を作ると、全部釣り上げたい！とゆっくり動かしてみたり色々工夫しながら釣り上げていました。



ネイルをしている時にもテレレは欠かせません。手前のテルモ（ポット）に氷と水が入っています。その隣に写っているグアンパ（コップ）にジェルバ（マテ茶の葉っぱ）を入れて、ボンビージャ（ストロー）で飲みます。